

トピックス編

ゴッホの素描

1 表彰

(1) 院内表彰（平成28年12月6日）

【感謝状贈呈】

- ・株式会社アウル
（理由：院内の衛生環境保全に努めてきた。これらの日々の活動は病院の質や信頼の向上に大きく寄与した。）
- ・岩槻ホテルの会
（理由：ホテルの飼育指導を通じてホテル観賞会の継続に尽力し子ども達に自然の素晴らしさや感動を与えることに多大な貢献した。）
- ・江原 正人
（理由：長年にわたり院内で理容室を開設し子どもたちの心身のリフレッシュに貢献をした。このことは子ども達の療養環境の向上に寄与した。）
- ・NPO法人 絵本カーニバル
（理由：絵本の展示やワークショップの開催などを通じて子ども達の想像力を育み絵本の素晴らしさを教えた。このことは子ども達の療養環境の向上に大きく寄与した。）
- ・おもちゃ図書館じゃんけんぽん
（理由：長年にわたり病棟で子ども達と遊ぶ活動を通じて子ども達の心を豊かにすることに尽力した。このことは子ども達の療養環境に大きく寄与した。）
- ・カリヨン文庫
（理由：長年にわたり本の読み聞かせの活動を通じて子ども達に楽しみを与え子ども達の心を豊かにした。このことは子ども達の療養環境の向上に大きく寄与した。）
- ・株式会社光洋
（理由：センター内で店舗を営業し丁寧な接客を行った。また医療品や衛生材料などの提供により患者家族の利便性の向上にも大きく寄与した。）
- ・国際興業株式会社
（理由：長年にわたり当センターへのバスの路線を運行しセンターの要望を受けバスの路線本数の増加を図るなど患者家族及び職員の利便性の向上に大きく寄与した。）
- ・NPO法人 子ども文化ステーション
（理由：魅力的な劇や演奏は子ども達に沢山の笑顔と感動を与えた。このことは子ども達の療養環境の向上に大きく寄与した。）
- ・株式会社コマーム
（理由：長年にわたり保育士として子ども達の大切な日常に寄り添い子ども達のために尽力した。このことは子ども達の療養環境の向上に大きく寄与した。）
- ・NPO法人 コロコロ研究所
（理由：創造的なからくり装置は子ども達の心を弾ませ想像力を育むことに貢献した。このことは子ども達の療養環境の向上に大きく寄与した。）
- ・公益財団法人 埼玉県国際交流協会
（理由：外国人の患者家族に対し分かりやすい通訳の活動に尽力した。これらの活動は患者家族が安心して医療を受けられることに大きく寄与した。）
- ・セブンイレブン 須賀 定雄
（理由：早朝から夜間までセンター内で日々営業を行い丁寧な接客を行ってきた。このことは患者家族や職員の利便性の向上に大きく貢献した。）
- ・株式会社山中
マクドナルド16号 深作店

(理由：ドナルド・マクドナルドの訪問活動は入院中の子ども達を楽しませ沢山の笑顔を与えた。こうした活動は子ども達の療養環境の向上に大きく寄与した。)

・太平ビルサービス株式会社

(理由：長年にわたり当センターの施設管理を担い施設機能の維持に尽力した。このことは子ども達の療養環境の向上に大きく寄与した。)

・高井 日年

(理由：風景写真を院内に掲示する活動を通じて四季の美しさや自然の素晴らしさを子ども達に伝えてきた。このことは子ども達の療養環境の向上に大きく寄与した。)

・高橋 實

(理由：天体写真を院内に掲示する活動を通じて子ども達からの天体に関する質問に受け答えするなど子ども達の好奇心を育むことに尽力した。このことは子ども達の療養環境の向上に大きく寄与した。)

・株式会社ダスキンヘルスケア

(理由：長年にわたり当センターで使用する医療機器の管理を担い安全な医療の確保に努めた。このことは病院の質や信頼の向上に大きく寄与した。)

・有限会社 戸口工業

(理由：長年にわたり緊急車両の運転を担い安全で迅速な対応に尽力した。このことは当センターの使命である高度医療の提供に大きく寄与した。)

・公益社団法人日本動物病院協会 七里動物病院 中村 悟

(理由：長年にわたるセラピードックの活動は子ども達に動物の魅力を伝え沢山の笑顔を与えた。こうした活動は子ども達の療養環境の向上に大きく寄与した。)

・NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク

(理由：青い目のサンタの訪問活動は子ども達に沢山の夢と笑顔を与えた。こうした活動は療養環境の向上に大きく寄与した。)

・株式会社ニチイ学館

(理由：長年にわたり当センターの医事業務を担い誠実な対応を行った。このことは病院の質や信頼の向上に大きく寄与した。)

・NPO法人 日本ホスピタルクラウン協会

(理由：長年にわたるホスピタルクラウンの活動は子ども達に驚きや笑顔を沢山与えた。こうした活動は子ども達の療養環境の向上に大きく寄与した。)

・有限会社 蓮田サービスセンター



(理由：長年にわたりセンター内で店舗を営業し丁寧な接客を行ってきた。また医療品や衛生材料などの提供により患者家族の利便性の向上にも大きく寄与した。)

・見沼市民フォーラム

(理由：ホテル観賞会の発足にあたり中庭の環境整備に尽力し子ども達に自然の素晴らしさや感動を与えることに多大な貢献した。)

・外来案内ボランティア 上原 敦子

(理由：長年にわたり外来ボランティアとして患者家族のサポートを行った。このことは病院の質及び信頼の向上に大きく寄与した。)

・外来案内ボランティア 小林 あき

(理由：長年にわたり外来ボランティアとして患者家族のサポートを行った。このことは病院の質及び信頼の向上に大きく寄与した。)

(2) 知事表彰 (平成29年1月11日)

【永年勤続表彰】

・30年表彰 ①坂中 須美子 ②大谷 真澄 ③嶋崎 幸也 ④大内 明子

・20年表彰 ①浅沼 聡 ②小林 順子 ③三井 規雅 ④成田 有里
⑤長場 美紀 ⑥松廣 香織 ⑦宮谷 幸枝 ⑧中島 典子
⑨若槻 智美

2 ボランティア活動

ボランティア名	開始年	活動内容	活動日・活動場所
カリヨン文庫	1986年	図書の貸し出し 読み聞かせ、お話会	毎週木曜日、第2・4火曜日 ：病棟
外来ボランティア	1997年	患者、家族の案内等	月～金曜日：外来
難聴ベビー外来 ボランティア	2000年	難聴ベビー外来での保育	月1回：保発棟
じゃんけんぼん	2001年	入院患児の遊びの相手	第1・3火曜日：3A
写真展示	2005年	風景写真の展示	季節毎の入替：廊下
天文写真展示	2008年	天体写真の展示 こどもたちからの質問に回答	年数回：外来廊下
マクドナルドのドナルド君	2009年	ドナルド君の病棟訪問	年1回：病棟
子ども文化ステーション	2011年	ストリングラフィ、人形劇など	年1～2回：講堂
ホスピタルクラウン	2012年	クラウンの病棟訪問	月2回：病棟
アニマルセラピー	2013年	セラピードッグの病棟訪問	月1回：病棟

3 「養護の会」各種イベント

5月16日～5月20日

「絵本カーニバル」

6月下旬～7月7日

「七夕飾り」

7月下旬～8月中

「夏祭り」

12月中

「クリスマスツリーの飾り作り、飾り付け」

患児、看護師、保育士でクリスマスツリーの飾り作り、飾り付けを行った。

「クリスマスイルミネーション」

当センターの中庭、プレイガーデンにイルミネーションの装飾をした。

大きなツリーやトナカイ、サンタクロースのモニュメントも好評であった。

「病棟クリスマス会」

3月14日

「ストリングラフィコンサート」

NPO法人子ども文化ステーションの企画でストリングラフィ（大きな糸電話のようなオリジナル楽器）を用いたコンサートの開催。非常に好評であった。

これらの事業は、長期入院などで外に出ることのできない子ども達の生活に潤いを与えたいと、医療スタッフや職員からなる「養護の会」が企画、協力したものである。

4 院内保育

(1) こども広場

院内保育室は、平成28年度で16年目を迎え、ホームページ、病院案内、利用者からの紹介などで、入院患児の御家族への認知度が高まっている。

利用対象者は、当センターに入院している患児者の兄弟姉妹であり、2歳6ヶ月から6歳までの未就学児である。

対象外保育として、1歳から2歳5ヶ月以下のお子さんや小学生は病棟から対象外依頼書を発行し、保育可能の了承があった場合のみ保育を行っている。

また、緊急を要する場合は、外来看護師長の了承があれば、外来の保育も行っている。

毎日の保育では、日々違うお子さんやキャンセルが入ることもあり、当日にならないと利用者、人数が確定せず、一貫した保育は難しい状況にある。

節分やおひなさま、七夕など季節の行事には、飾りつけの製作を行っている。

特にクリスマス会は、年に一度の行事として位置づけ、歌を歌ったり、毎年保育士による出し物やゲームを楽しみ、手作りおもちゃをプレゼントし、好評を得ている。

利用者の推移

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
人数	1,126人	1,310人	776人	848人	703人

平成27年度利用者の月齢構成

年齢	人数	構成率
2歳6ヶ月未満	68人	9.7%
2歳6ヶ月～2歳11ヶ月	76	10.8
3歳	183	26.0
4歳	117	16.7
5歳	165	23.5
6歳	81	11.5
就学児	5	0.7
外来	8	1.1
計	703	100.0

(2) かりよん保育園

当センターの医師や看護師等の定着と確保を図るため、旧病院長公舎を改築し、病院職員の乳幼児を預かる院内保育施設を、平成21年4月1日に開設した。平成29年1月、新病院内に隣接するさいたま赤十字病院と共用する保育施設をオープンした。保育対象の子供は産後休暇・育児休業取得後の0歳児から小学校就学前まで、保育時間は午前8時から午後6時（前後に各1時間の延長あり）まで、定員は50名（各病院25名）保育園の運営は民間業者に委託で行った。

平成28年度は、年度当初の入所者20名で、年度末には22名へとほぼ横ばいで推移した。1年間で医師11名、看護師13名、コメディカル1名の計25名が利用した。

また、夜間保育については昨年度に引き続き週3回（月、水、金）行っている。

埼玉県立 小児医療センター 歌

さんぼく たけし 作詞
 巖 のぼる 作曲
 川越 徳子 編曲

埼玉県立 小児医療センター 歌

さんぼくたけし

若草萌える 武蔵野に
 病める幼き 子どもらへ
 愛の医療を 捧げんと
 集り参じて 灯をともし
 われら 小児センター ここにあり
 小児医療センター ここにあり

真白の富士を 仰ぎ見る
 幼き生命を 救わんと
 燃える希望と 情熱で
 明日の医療を いま築かん
 われら 小児センター ここにあり
 小児医療センター ここにあり

(平成2年4月 職員有志により作詩、作曲された)

発行 平成30年2月
編集発行 埼玉県小児医療センター
埼玉県さいたま中央区新都心1番地2
電話 048(601)2200 (代表)
FAX 048(601)2201
印刷製本 株式会社白樺写真工芸

